

事務事業名		図書館読書推進事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進				事業期間		予算科目				
	施策名	25 生涯学習の推進						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 市民の学習活動への支援						01	10	05	05	06
根拠法令		図書館法										
所属	部課名	企画政策部図書館										
	課長名	千葉博世										
	係名	奉仕係	電話	26-4478								
	担当者	佐々木達也	内線	450								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
読書活動の推進を通して、本や読書の大切さを広め、市民の教養や文化の向上を図る事業。 主な業務は次のとおり。 ・読書感想文コンクールの実施(市民を対象に感想文を募集し、審査し表彰式を行い、作品集を発行する。) ・おはなしパレード(図書館内において、ボランティアの協力を得ながら、定期的に読み聞かせ会を行う。) ・お楽しみ親子劇場(子どもを中心とした市民を対象に、人形劇や歌などの公演を行う。) ・読書ボランティアの育成・支援(読み聞かせ会などの活動機会や各種情報を提供し、育成・支援を図る。) ・ブックスタート(7歳児の健診時に、絵本を配布し、本や読み聞かせの効用などを説明する。) ・各種図書展の開催(時宜を得たテーマを設定し、図書の展示を行う。) 事業費は、報償費、消耗品費等に支出される。						総 投 入 量 (千円)	事業 費 内 訳	国庫支出金				
								都道府県支出金				
								地方債				
								その他				
								一般財源				
								事業費計(A)	0			
人 件 費	正規職員従事人数											
	延べ業務時間											
	人件費計(B)	0										
	トータルコスト(A)+(B)	0										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位
上記の事業概要と同様。	ア 事業開催回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 事業参加者数	人
前年度と同様。	ウ 図書展開催日数	日
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民	名称	単位
	カ 市の人口	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	キ	
この事業を通して、本や読書、図書館の大切さや素晴らしさなどを感じ、理解や関心が高まることによって、生活の中での読書や図書館利用がすすみ、文化・学習活動が促進される。	ク	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
市民の、本や図書館への理解や関心が高まり、豊かな心が育まれ、教養・文化の向上が図られる。	名称	単位
	サ 読書感想文コンクール応募作品数	作品
	シ おはなしパレード、親子劇場等参加者数	人
	ス 展示期間中の貸出冊数	冊

(2) 総事業費・指標等の推移				年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円	351					
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	255	364	354	360	547	630
	事業費計 (A)		千 円	606	364	354	360	547	630	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	
		人件費計 (B)	千 円	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	7,806	7,564	7,554	7,560	7,747	7,830
⑤活動指標			ア	回	35	55	54	55	45	54
			イ	人	8,933	27677	25,672	17,982	12,198	13,417
			ウ	日	85	297	326	241	138	151
⑥対象指標			カ	人	39,376	39117	38,871	38,712	38,167	-
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	作品	114	124	123	117	125	137
			シ	人	783	1,034	909	1,047	1,214	1,335
			ス	冊	39,263	126,367	123,827	85,319	54,662	60,128

事務事業ID	0879	事務事業名	図書館読書推進事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 「読書感想文コンクール」は昭和43年から、「おはなしパレード」は平成10年より、「ブックスタート」は平成17年より行われている。いずれの事業も、児童生徒をはじめとした市民の、読書活動の推進と図書館利用の促進を目的に開始された。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 子どもの成長や豊かな人生を生きるために、本や読書、図書館の重要性なども広まってきており、こうした事業の役割は、益々重要性を帯びてきていると思われる。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 参加者や関係者からは、概ね理解や好評を得ており、継続した開催を求められている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	各種事業を実施することにより、読書活動の推進と図書館利用の促進が図られることから、生涯学習の推進につながっている。また、女性や子育て支援の面などにおいても、その一端を担うものとなっており、市の政策体系と結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	こうした事業は、採算を伴うものでないため民間の受託は無く、一方で、市民の教養・文化の向上などにおいて必要なものであり、充実した事業展開を図っていくために、公共関与は妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	市民を対象としており、現状で適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	事業を継続させながらも、改善や工夫を加え内容の充実を図り、より多くの参加者を集めることにより、一層成果が向上されると思われる。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	市民の、読書習慣の形成や読書意欲を育む機会が減り、生涯学習や教養・文化を高めるうえで影響がある。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	図書館で開催することは妥当。ただし、内容を充実させる観点から、読み聞かせグループの連携などは有効と思われる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	事業費は、読書感想文コンクールにおいて審査や指導にあたる審査委員の報償費、ブックスタート事業における配布図書の購入費等必要不可欠なものだけであり、また、市民ボランティアの協力を得て事業を行っているのが現状であり、これ以上の事業費削減は困難である。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	職員は、事業実施の主体となって事務を行い、公正で良質な事業実施を図るうえで必要であり、これ以上の削減は難しい。塗装	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	各種事業は、事業の特性や図書館法に定められた無料原則に基づき費用は徴しておらず、また、対象を市民として広く参加を呼びかけていることから、公平・公正の面で適切であると考えられる。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																															
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	各種事業は、図書館法や図書館の理念に基づきながら、市の政策体系に沿って、広く市民を対象として、公平・校正に実施されている。また、近年こうした事業への期待も高く、参加者からは、概ね理解や好評を得ており、事業を通して本や図書館への関心を高め、市民の教養・文化の向上が図られており、全体的に妥当であると思われる。今後は、より多くの市民を取り込むために、広報や運営などに改善や工夫を加え、ボランティアとの連携を図りながら、継続させていくことが大切であると思われる。																				
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																															
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 催事に関する広報の強化と、参加者が求めている内容を提供することにより、より多くの参加が見込めるとともに、読書意識の高揚が望める。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上		●																														
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																																	
より多くの市民がこうした機会に触れられるようにしていくことが重要である。そのため、市民への周知において、従来の新聞やポスターなどによる告知的な広報に加え、本や読み聞かせの効用や重要性などをアピールすることによって、市民の理解と関心が高まり、参加が促されるよう事業展開を図っていく。																																	

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	図書館長
	千葉博世

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																																	
☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている																																	
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																																	
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																																	
(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由																															
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	読み聞かせ会、ブックスタート等の幼年期からの読書習慣形成のための催事を行い、参加者からは概ね好評を得ている。さらに、ホームページ・広報・コミュニティFM・報道機関等を活用した広報宣伝を強めるとともに、参加者ニーズを把握したうえでの運営が必要である。開催時間帯、実施内容の見直しなど、参加しやすい環境を作ることで、参加人数の増加が見込める。 また、読み聞かせボランティア等の育成の面からは、実演の技術向上を図ることにより、参加者の本に触れる機会をアピールすることができる。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果																															
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) ホームページ・広報・コミュニティFM・報道機関等を活用した広報宣伝を強めるとともに、開催時間帯、実施内容の見直しなど、参加しやすい環境を作ることに努める。 また、読み聞かせボランティア等の育成の面からは、実演の技術向上を図ることにより、参加者の本に触れる機会をアピールする。 学校図書館協議会や地域と連携した取組みを推進する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上		●																														
	維持			×																													
	低下		×	×																													

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項

--